

平成26年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成26年7月29日(火) 午後1時30分～3時30分

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 小幡 銀伸 ((公財)豊田市体育協会 会長) 《会 長》
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長) 《副会長》
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)
近藤 憲彦 (豊田市区長会 理事)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
平林 栄子 (スポーツ指導員 代表)
北村 幸子 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
柴田 昌隆 (豊田市小中学校長会 代表)
鈴木 秀次 (豊田市健康づくり協議会 会長)

【欠席者】 (委 員) 湯浅 景元 (中京大学スポーツ科学部 教授)
藤原 睦行 (事業所代表 トヨタ自動車(株) 人事部)

【事務局】 笠井 保弘 (教育長) 塚本 伸宏 (教育行政部長)
宮川 龍也 (教育行政部副部長) 伊藤 勝介 (スポーツ課長)
杉山 寿美雄 (スポーツ課副課長) 梅村 靖之 (スポーツ課担当長)
畔柳 隆二 (スポーツ課担当長) 太田 信人 (スポーツ課担当長)
田中 真美子 (スポーツ課主査)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 委嘱状交付
2 教育委員会あいさつ
3 委員紹介
4 会長あいさつ
5 今後のスケジュール (資料1)
6 報告
(1) 2019年ラグビーワールドカップの豊田市招致について (資料2)
(2) 第2次豊田市生涯スポーツプランについて (資料3)
7 議題
(1) 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取り組みについて
(資料4)

【会議録（報告、議題部分のみ）】

■報告（1）2019年ラグビーワールドカップの豊田市招致について

事務局：資料に基づき説明（資料2）

会 長：たいへん重要な事項である。何か意見質問等あるか。

委 員：スタジアムの芝は大丈夫か？

会 長：問題ない。試行錯誤の結果、今は質の良い芝となっている。ラグビーのためには5年ものくらいの芝が必要なので、今から準備が必要。

■報告（2）第2次豊田市生涯スポーツプランについて

事務局：資料に基づき説明（資料3）

質問なし

■議題（1）「東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた豊田市の取り組みについて」

- ・選手の育成について
- ・身体障がい者への支援について
- ・キャンプ地の誘致について

事務局：資料に基づき説明（資料4）

会 長：各自治体がいろいろなことをやり始めた。

今日、決定するわけではないが、みなさん、一言ずつ意見を。

委 員：スポーツ指導者として生活していくことができるようにするべき。将来の不安を取り除く必要性。行政や企業のバックアップで指導者を育成すべき。工場で働くより子供たちの指導をして、子供たちの夢を叶えてあげるといような指導者が必要。ボランティアでは限りがある。

委 員：最初の会長の挨拶にもあったように、豊田市には指導者がたくさん存在しているようである。豊田市には産業もあるので、特別な技術をもって障がい者を支援できればどうか。産業育成するような形で指導者も育成したらどうか。

委 員：素晴らしい指導者がたくさんいるとよいが、外国に比べるとその後の生活のことや指導に専念できる環境が少ない。仕事を持ちながらでも指導に力を入れていけるように、すでにやっている方たちの精神的な部分も含む支援が必要。他県からも技術面でのおもしろい指導者を呼んで育成。横のつながりも必要。市が統率して学校の指導者へ働きかけると良いのではないか。

委 員：競技スポーツとは少し違う視点だが、最近の子供は持久力がなく、すぐ飽きる。オリンピックには間に合わないかもしれないが、豊田市からオリンピック選手をと会長がおっしゃったが、それに連なるよう、初歩的な土台づくりを進めていけたらいい。直接的に東京オリンピックに間に合わないかもしれないが、オリンピックに向けて何をしたらよいか、あと2回の審議で、協議会でも協議して何か案を出せたらいいと思う。

委 員：香川の話があったが、愛知はすでに動いている。障害者スポーツ協会と体育協会との連携は全くない。もとを正せば障害者スポーツ協会は厚生労働省の外郭団体の流れで

できていて文部科学省ではない。その壁はいまだある。愛知県は障害者の大会を5月にやった。指導者には健常者が多いが、地域の体育協会との連携を望んでいる人が多い。どこか、何か歯車が回転するとよいとも思っている。

委員：豊田市として、おもてなしの心で素晴らしい施設を活用することをまず思いつく。中京大、スポーツセンターなどを活用できるような方向で推進できたらよい。ナショナルチームとはほど遠いが、オリンピック目標であり、その後も継続していけるようなものを育成できたらよい。中京大、トヨタ自動車など素晴らしい指導者がたくさんいるのに、豊田の子供のレベルは低い中で一生懸命指導しているので、指導者の育成も含め支援すると、いろいろな競技スポーツがレベルアップできるのかなと思った。

委員：ワールドカップの誘致やキャンプ地の誘致について、豊田市は高速道路のインターがたくさんあるので交通網が良いと思う。宿が少ない気はするが、名古屋市などの施設を利用してもらうなど、そういったエリアを含めて考えたらよいと思う。

委員：オリンピックに向けた豊田市としての取り組み。何を目玉とするのか？選手を育成するのか？障がい者を支援するのか？キャンプ地を誘致していくのか？学校関係として、それぞれの立場として関わっていけると思う。

選手の育成についてだが、部活は本来のねらいが違い、3年間の学校生活の一部としてあっているので、必ずしも力をつけることだけがねらいではないが、いい素質を持った子を見出してあげるのも学校教育の役割のひとつ。全国で活躍している子もいる。昔は学校行事優先であったが、今は学校行事と重なっても、全国で活躍できる子については大会優先とするなど協力的な体制もできている。部活の顧問等の指導者としての力量をあげるというより、そういう子達が招集されて活躍できるようにすることのほうが、学校としてはできること。

また、キャンプ地になったら、学校としても国際交流的な部分で関われる部分があるし、具体的な部分が出てくればそれはそれで学校としても関われると思う。

あと、オリンピックでいえば、昨年度、足に障害があり、パラリンピックの短距離に義足で出場した中京大の現役生の講演会を生徒向けに行った。その方の話を聞いたり、義足でものすごいスピードで走るのを見せてもらった。生徒たちにとっても刺激になったし目標にもなった。その方が7年前に事故に合い、義足で生活することになった。それから7年経って今がある。みなさんにとって7年後に何がありますか？ちょうど、東京オリンピックですね、という話だった。生徒自身も自分が19歳、20歳、21歳になる頃にオリンピックがあり、これから自分の7年後の目標を立てて、色んな部分で東京オリンピックにも選手だけではなく関わっていけるのではないかという発想で、例えば通訳のボランティアや、運営の手伝いなど、オリンピックに対して、そういう方をお呼びした結果、意識をしたし、色んな部分での目標をたてることができたように思えた。そういった意味で国内でのオリンピックを盛り上げていく。また、地元でも盛り上げていく。選手や選手だった人との出会いや講演などで関わることで、意識を高めるうえで大きな役割を示せると思う。学校としても豊田市の取り組みに応じていろいろな取り組みがしていけると思っている。この審議会で、情報を得たら、校長会でも流していく。

会長：今日は答えを出すのではない。早くやるべきことと、時間をかけてやることがある。通常オリンピック選手が企業や大学など、支援する組織があるが、カヌーの羽根田君は支援がない。今は後援会があるが、すごいと思ったのは、彼は私費でヨーロッパに

行き練習している。そういう人は日本ではなかなかいない。

先日、JOCの方と話をしたが、彼もリオ五輪だけでなく次も狙えるのではないかという話をした。順位も上げてきている。また、羽根田君に続く選手が高校にいると聞いた。豊田市にもそういう人がいる。今、中学、高校で活躍しそうな人を育てなければいけない。選考の基準が難しいかもしれないが、豊田市が独自で強化選手を支援することを検討してみてもどうか。

事務局：各自治体の取り組みの中で、実際直接将来有望な選手に対して支援している自治体もあるようだ。不可能ではないと思う。調べてみる。

会長：才能のある選手が他にもいると指導者が言っていた。市役所も研究してほしい。体育協会ではできない。企業、大学はそれぞれやればよい。できれば、グランパスやラグビーの選手が豊田市から出てほしい。東京オリンピックに間に合わないかもしれないが、若い人の励みになる。豊田からたくさんのオリンピック選手を出して、オリンピックに出るのは夢ではないとみんなに思わせたい。早く予算をつけて、今の高校生くらいを育てないといけない。強化選手をしぼって、援助したり、指導者を探したりということも必要。

委員：カヌーの羽根田選手のお父さんは、自分の夢だからということで、私費で行かせたと聞いている。自分はスポーツ推進委員で長年お世話になって関わった。競技スポーツとしての体育協会、一般の子供から高齢者対象のスポーツ推進委員の両方を見てきている。クラブ活動には限界があるので、力のある選手は優秀な指導者のいるところへ行かせる。強い選手を育成するだけではないと思うが、親は子供の芽を見つけて、強いチームに入れるのがよいと思う。

会長：障がい者でオリンピックに出場できそうな人はいるか？

委員：県内にはいるが、市内にはいない。

団体は情報が得やすいが、個人競技は才能ある人が埋もれているかもしれないので見つけてあげたい。障がい者に限らず。

会長：小中学生で期待のある選手は？

委員：ある程度才能を持っている子にとっては、いい目標であり、いい機会を与えられれば親も含めて希望者はいると思う。ただ、部活だけで育てていくことは難しい。強化選手として引き上げられれば、学校では経験できないことも経験できてとてもいいと思う。学校も支援できる。

会長：市も研究してほしい。

事務局：強化していく仕組みを作ることもひとつの方法。また、ピンポイントで金銭的な部分も含め支援するのもひとつの方法。いろいろあると思う。

会長：東京オリンピックに間に合わなければ次でもよいので、豊田市としてそういう制度を作ってほしい。今は基金の利息でということは難しいから、みなさんからお金を集めてもいい。方法はいろいろある。今の子供は夢が無い。アスリートを育てるだけでなく、若い子に夢を持たせる。この間、厚生労働省が元気寿命を発表した。男子は愛知県が1位だった。女子は静岡県が1位。長野県は全国で医療費がかからないということで1位だった。頭も使い、体も使うことが長生きの秘訣の1つだと思う。みんなが元気で長生きしてもらえば、医療費が削減できる。スポーツにより、痴呆が予防できるという研究結果もある。橋本聖子さんが、スポーツに1兆円くれたら10兆円返すと言っていた。予防医療が必要。8月17日に第1回目のラジオ体操とウォーキング

をやる。今日は欠席だが、中京大学の湯浅先生も来てくれる。やっぱり具体的なことをしなくてはいけない。

事務局：今日の議題は、今年度通じて議論したいが、選手の育成に限らず、オリンピックを契機としてスポーツをどう振興するかという点も考えていけたらと思う。講演会や子供たちがスポーツに興味を持つような施策。また、指導者の育成などにも課題もあるがいろいろ意見をいただきながら、進めて行きたい。助成や支援は市で検討するが、次までに他の視点からも意見をお願いしたい。

会長：豊田マラソンへのt o t oの助成金や、中京大学を活用した取組みに対して文部科学省の補助金があるが、そういったものは有効に使わなければいけない。特徴的なことをやって助成金などをもらえるように。他のまちにないようなことを取り組む。豊田を素晴らしい街にし、みんなに元気で長生きしてもらいたいと思う。最後に何か意見があれば、どうぞ。

委員：5月の障害者スポーツ大会のセレモニーで井郷のブラスバンド部に演奏してもらい、たいへん好評だった。選手がとてもよろこび、励みになった。ありがとうございました。

以上